

サンフランシスコ・ベイエリアの「Matcha」製品事情について

平成25年1月10日
サンフランシスコ産業情報センター
駐在員 佐藤 賢児

毎年1月頃、米国西海岸最大級の食品見本市「ウインター・ファンシー・フードショー」が、サンフランシスコ市内のコンベンションセンターで開催されていますが、今年も、ジェトロが設置するジャパン・パビリオンに、県内の食品製造企業が出展する予定です。

ところで、本県は、てん茶（抹茶の原料）の栽培が大変盛んであり、市町村別では、西尾市が全国一の生産量を誇る「てん茶」の一大生産地ですが、日本全国で広く親しまれている「抹茶」は、米国内でどのように普及しているのでしょうか？

今回は、サンフランシスコ・ベイエリアにおける抹茶製品事情について報告します。

【日系スーパーマーケットの事例】

現在、当センターが活動しているサンフランシスコ市及びその周辺地域(以下、「サンフランシスコ・ベイエリア」)では、日系のスーパーマーケットが何店舗か営業しており、日本で生活している時と同じように、



抹茶はもちろん、抹茶味の菓子やデザート・飲料を始め、あらゆる日本の食品を手軽に購入することができます。

そして、私が訪れたいくつかの日系スーパーマーケットの店内では、日本人を中心に多くの米国人の買い物客も見かけ、また、店舗の出入り口付近の特設コーナーで、英語表記だけで日本茶のパックを販売している店舗も見受けられました。

【アメリカ系スーパーマーケットの事例】

全米でチェーン展開している一般的なスーパーや、有機食材を中心に取り揃えている高級志向のスーパーなど様々な店舗がありますが、例えば、有機食材を中心に取り揃えている全米チェーンの店舗では、米国や



中国、台湾、インドなど、ざっと数えただけでも、数百以上の世界各国のお茶が販売されており、その中に5種類程の抹茶も販売されていました。

また、サンフランシスコ郊外から、わざわざ食材を買いに来る買い物客もいると言われ、

数多くの有機食材を量り売りで販売しているサンフランシスコ市内の店舗でも、前述の全米チェーン店と同様に、世界各国の数多くのお茶と一緒に、日本産や中国産の抹茶が販売されていました。

この他にも、大型の店舗内で日用品や食料品を大量に販売している大手チェーンが、サンフランシスコ・ベイエリアだけでも 10 店舗以上営業しています。私が訪れた店舗では、日本のペットボトル入りの緑茶飲料が箱積みで販売されていましたが、抹茶製品は見当たりませんでした。



【茶葉専門店の事例】

サンフランシスコのダウンタウンに、終日、多くの買い物客で賑わう大型ショッピングセンターがありますが、その中で日系の茶葉専門店が営業しています。ご対応いただいた店舗マネージャーの方によると、ここの店舗は約 6 年前にオープンし、その他にも米国内では、西海岸を中心にハワイにも進出しているそうです。

私が、この店舗を訪れた時期がちょうど新年が明けて間もなかったこともあり、ショッピングセンターの通路側に面した店舗の入り口付近には、日本のお正月を連想させるディスプレイにより、抹茶と抹茶を点てる道具が陳列されていました。店舗の前面はガラス張りで壁面は白を基調としており、また、世界各国から輸入した様々なお茶が整然と陳列され、とても洗練されたイメージの店舗デザインになっています。

この店舗では、100 種類以上の紅茶や緑茶、ウーロン茶、ハーブティーなどを扱っており、また、店舗によって客層は異なりますが、サンフランシスコ・ベイエリアは、米国内でも健康志向の人々が多いと言われているため、地元の健康に気を使う高齢者や若者を始め、海外や米国内からの観光客も数多く訪れるそうです。

なお、ここの大型ショッピングセンター内では、この日系茶葉専門店以外にも、昨年だけでお茶の専門店が新たに 2 店オープンしており、その中の 1 店舗においても、日本産の抹茶や煎茶、玉露などが販売されています。健康志向の人々が多いと言われるサンフランシスコ・ベイエリアで、お茶への注目が高まってきているのかもしれない。



日系の茶葉専門店



新たにオープンした茶葉専門店



【飲食店の事例】

サンフランシスコのダウンタウンに、抹茶や緑茶、ウーロン茶、ハーブティーなど、世界各国のお茶を提供するお洒落なティー・ラウンジがあります。

この店は、サンフランシスコ市内だけで3店舗あり、週末に訪れた店舗には、ざっと数えただけで約50席近くの座席がありましたが、ほぼ満席で、“予約はありますか？”と聞かれた程多くの客で賑わっていました。メニューを見たところ、日本茶では「Matcha Hekisui（抹茶へきすい）」と「Ryokucha（緑茶）」があったため、この2つを注文し試に飲んでみましたが、「Matcha Hekisui」は、大型のお椀で抹茶が振る舞われ、また、「Ryokucha」は、急須と共にかなり濃い目のおいしい緑茶が提供されていました。

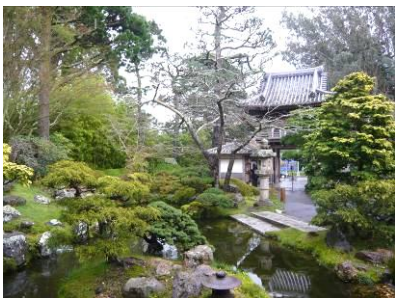


また、サンフランシスコ・ベイエリアに限りませんが、世界各国で店舗を展開している有名なコーヒー・チェーン店でも、「Matcha」ドリンクを販売していますし、その他にも、街中のあちこちで見かけるジェラートやシュークリーム、スムージーなどのデザート類の店舗でも、「グリーン・ティー味」がメニューの中にあり、米国においても、広くその味が浸透しているように見受けられます。



【観光スポットの事例】

サンフランシスコ市の北西部に「ゴールデンゲート・パーク」という公園がありますが、公園内には、様々なレクリエーション施設や美術館、博物館の他に「Japanese Tea Garden（日本茶庭園）」という観光スポットがあります。文字通り、この広大な公園内に見事な日本庭園を再現している訳ですが、私が訪れた時も結構な数の入場客で混雑していました。そして、この庭園の中で唯一営業している飲食店では、抹茶を始めとした各種のお茶やあらゆる軽食類を提供しており、また、隣接する売店では、和風の小物や菓子類、お土産と共に、抹茶や煎茶、ほうじ茶など各種日本のお茶も販売しています。



【「Matcha」の普及に向けて】

以上のように、サンフランシスコ・ベイエリアの主なスーパーマーケットや茶葉専門店、飲食店における抹茶製品事情の一例を見てみましたが、その他の店舗も含めた概況をまとめると以下のような状況でした。

住所	種別	抹茶製品 (○=有)	備考
サンフランシスコ市内	日系スーパーマーケット	○	日系スーパー、日本産の抹茶あり
	米系スーパーマーケット	○	全米チェーン・高級志向の品揃え・日本産の煎茶と抹茶(米国産)あり
	米系スーパーマーケット	なし	全米チェーン・オーガニックな食材を扱う人気店
	米系スーパーマーケット	なし	全米チェーン(一般向け)、グリーンティー製品あり
	米系スーパーマーケット	○	協同組合マーケット、オーガニック製品、お茶製品の品数豊富、抹茶(日本産)あり
	米系倉庫型小売店	なし	全米チェーン、日本メーカーの緑茶パックを箱単位で販売
	観光スポット	○	日本庭園内の小売店で抹茶製品も販売
	飲食店	○	本格的な抹茶を提供
	大型ショッピングセンター	-	ダウンタウンにある有名なショッピングセンター
	日系の茶葉専門店	○	日本の抹茶を販売、その他にも世界各国のお茶あり。品揃え豊富
	米系の茶葉専門店	○	抹茶パウダーを販売(産地不明)
	米系の茶葉専門店	○	日本産の抹茶パウダー販売(10段階で8ランク)、煎茶、玉露もあり
	米系食料品店	○	抹茶製品もあり
	複合型商業施設	-	映画館や大手小売店、飲食店などが入っている複合型施設
	飲食店	○	各種ティー専門店・Matcha green teaあり
	米系小売店	なし	全米チェーンの大手小売店(スーパーもあり)
	米系シュークリーム専門店	○	グリーンティー味あり
	日系和菓子店	○	抹茶味のカステラと餅も販売
	日系小売店	○	日本の雑貨チェーン店・抹茶製品もあり
	観光スポット	-	飲食店や小売店、マーケットなどが入居している
中国系飲食店	なし	日本のお茶は取扱っていない	
ジェラート専門店	○	全米チェーンのジェラート専門店、抹茶味あり	
サンフランシスコ郊外	日系スーパー(サンノゼ市)	○	全米最大級の日系スーパー、日本産の抹茶あり
	日系スーパー(クバティーン市)	○	日系スーパー、日本産の抹茶あり
	日系スーパー(サンマテオ市)	○	日系スーパー、日本産の抹茶あり
	米系スーパー(サンマテオ市)	○	カリフォルニア州内チェーン店、高級志向

今回訪問した店舗は、ほんの一例に過ぎませんが、全体的な感想としては、

- 一般的な米系スーパーマーケットでは、紅茶やハーブティー、緑茶にレモンなどの味を加えたお茶の品数は豊富だが、抹茶はほとんど見かけなかった。
- 一方で、日系のスーパーマーケットや、有機食材を中心に取り揃えた米系スーパーマーケット、茶葉専門店では、手軽に抹茶を入手できる。
- また、抹茶(緑茶)味に「甘味」を加えたデザートや菓子、飲料は街中でよく見かけ、米国でも広く浸透しているようである。

このように、本来の「抹茶」を入手できる店舗は、日系のスーパーマーケットや有機食材を中心に取り揃えた米系スーパーマーケットなどのため、その数はまだ決して多くはありませんが、例えば、昨年ニューヨーク市が肥満対策の一環として、市内の飲食店や映画館などで大型容器による炭酸飲料の販売を禁止する方針を発表するなど、米国では、肥満人口の増加が大きな社会問題になっています。そのため、抹茶の持つ健康への効用やヘルシーなイメージが米国人の間で広まっていけば、抹茶への注目がさらに高まるかもしれないと感じました。